

仕事と家庭の
両立支援モデル
事業所

医療法人

かぶとやま会

(医療、福祉)

久留米リハビリテーション病院

■業種／医療、福祉 ■常用労働者数／233人 ■所在地／久留米市山本町豊田1887

主な取組み・実績等

- ①事業所内託児所を設置
- ②育児休業中の職員へ定期的に病院の現状報告を行ったり、復職後の勤務時間について柔軟に対応するなど、育児休業取得者が安心して復職できる環境を整えている
- ③現在10人程度の職員が育児休業を取得中
- ④男性の介護休業取得実績あり

スタッフの心の余裕は、良い仕事の原動力になる

早くから、高度のリハビリテーション医療に取り組んできた久留米リハビリテーション病院。

病院にとって、患者さんや地域とのコミュニケーションは重要です。そのためには、スタッフが地道に信頼感や人間関係を築いていくことが大切です。そこで必要になってくるのが、スタッフが長く働ける環境づくり、これが久留米リハビリテーション病院の基本的な考え方です。

『お母さん看護師が安心して働ける職場づくり』を目指して、その活動の中心的な役割を果たす看護副部長の小山田さんは、「長く勤務することでスタッフに帰属意識が生まれ、それがレベルの高いケアにつながると考えています」と語ってくれました。

このような考え方が育児・介護休業制度の充実にもつながっていくのですが、実際に休暇を取るには、それをしやすくする空気が職場内に必要となります。そのため、小山田さんは常々スタッフたちに「自分に余裕がないと、人に優しくなれない」と話し、仕事と同時に自分の生活も大切にすることをすすめています。

また、看護休暇については「自分の病気だと仕方ないと思っても、子どもの病気では休むことに罪悪感を感じる人がいるものです。でも、子どもは成長の過程で必ず病気にかかるのだから、看病が必要なときは遠慮なく休んでいいのです」と小山田さんは言います。

スタッフの生活を重んじる姿勢は休暇の制度だけでなく、スタッフ教育といった面にも表れています。例えば、看護師の研修。看護師には年間を通じて様々な研修があります。しかし、育児に忙しいお母さん看護師では、常に研修に出るのがなかなか難しいという現状があります。そこで、今後は、当日は参加できないスタッフも知識が平等に得られるよう、研修内容をDVDにおさめ、いつでも学ぶことができる体制づくりを進めているところです。

ワークライフバランスこそクオリティアップの鍵と考える久留米リハビリテーション病院。今後は院長や看護副部長を中心に、スタッフの心のゆとりを大切にすることを貫いていく考えです。



医療法人 かぶとやま会 久留米リハビリテーション病院
柴田 元 院長・理事長

「看護師に余裕がないと患者さんに優しくなれない」と語る小山田つるみ看護副部長。



心のゆとりを育むという方針が浸透しているため、ナースステーションの雰囲気は常に明るい。